



『安全・安心の標語』

水煙会・会長 長崎 駿二郎

錦秋の候となりました。

齢・古稀を過ぎますと人間とは不思議なもので、何となく安住の地、安楽の日々を求めるようになるものです。これが人間の摂理と言うものなら、若かりし頃、果敢にリスクへ挑戦し、汗と涙に明け暮れた自分に満足するのも、その一連なのかも知れません。

ところが、先日関係先の建設作業所を訪問した際に「そもそも安全など存在しない。常に存在するのは危険だけである」という標語が掲げているのを見てドキッと致しました。確かに、建設現場は自分の職場でもあった事もあり、当に危険の塊です。その中で色々な作業を効率よく行うのですが、如何に安全である為の創意工夫、工程立案、指示命令、確実実行、規則遵守、保安点検、全員励行と言った事を積み重ねて、毎日の安全が確保されて来るわけです。

しかし考えてみれば危険と言うのは、建設作業所の場内だけでなく色々な処に存在します。身近なところでは家庭内の僅かな段差から夫婦喧嘩、一歩外に出れば交通事故、酔っ払い、ホームからの転落に始まって、原発、尖閣、竹島、北方領土と言った国家レベルのリスクがあり、いつどのような危険が迫ってくるかわからない処に我々は住んでいると心得なければいけないでしょう。

そして、その標語には「常時、安全に対する配慮を怠れば、必ず事故は起きる」と書かれており、更に「安全は一人一人が力を合わせて作り出すもので、決して誰かが作って呉れるものではないと心得よ」続きます。

振り返ってわが足元の水煙会を見ますと「大学が存在するから、理工学部が存在するから、あるいは建築学コースが存在するから安心、安泰」と考えているのは「憲法9条があるから日本は安心」等と考えているのと同類で、何もしないで維持さえしていれば安全・安心・安泰が続く事などあり得ないと言って良いのではないのでしょうか。水煙会も30年ほど前迄は、創設時であり、日の出の勢いの隆盛を誇って居りましたが、どこかで皆様の関心が薄れて行き、ドンドン衰退の方向を辿って行ってしまいました。

「津波と人間」と言う寺田寅彦が80年前に書いた随筆の中に、法律で縛っても、石碑を建てても結局はあれだけ多くの犠牲を出したにも拘らず「**人間的自然現象**」で同じ過ちを繰り返すと書いています。この標語の締め括りに「**歴史から得られる最大の教訓は人類が得られる最高の教訓を少しも役立てなかった**」と結んであります。この2つの格言は何としてでも我が水煙会の活動の戒めにしなければいけないと考えております。（標語は黒田勲・早稲田大学人間学部教授の書より）

この秋の水煙会セミナーは11月8日（金）午後4時より世界一の塔「東京スカイツリー」を見ながら、当時作業所の副所長で陣頭指揮をとられた、大林組の田辺 潔様をお招きして「如何に安全に配慮してこのタワーを作り上げたか」のお話を伺う事と致しました。安全・安心に対する緻密な計画、確実な実行等の講話をお聞きしながら、水煙会のこれからの存続と発展の参考にさせて戴きたいと思っております。会員の皆様も又とない機会でございますので、是非ご参加下さるようお願い申し上げます。

以上